

## 1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。

＜校訓＞ あかるく元気な子 なかよく助けあう子 力いっぱいがんばる子

## 2 学校の特徴

本校は、知的障害のある児童生徒の教育を目的として県下で最も早く設置された学校であり、小学部・中学部・高等部の三つの学部で構成されている。また、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が併設されており、本年度は全校児童生徒250名が在籍している。

- (1) 心の触れ合いを大切にしながら、個性を尊重した温かい人間関係と豊かな情操の育成に努めている。
- (2) 児童生徒一人一人の障害の状況や興味・関心を大切にしながら、それぞれの教育的ニーズに応じて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、生活自立と社会参加に向けた指導・支援を実践している。
- (3) 健康で安全な生活習慣や態度が身に付くよう体力づくりに努めるとともに、安全教育を計画的・組織的に実践している。
- (4) 家庭及び地域、関係機関等と連携し、開かれた学校づくりの推進に努めている。
- (5) 生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む「ウェルビーイング」の考え方を理解し、様々な目標づくりに生かすよう努めている。

## 3 学校の現状と課題

- ・本校には、重複障害児が約3割、自閉症スペクトラム障害等の発達障害を併せ有する児童生徒が約6割在籍し、障害の状態も重度・重複化、多様化している。したがって、児童生徒一人一人の障害特性に応じた専門的知識や系統的・組織的な対応力が必要である。
- ・学習面や生活面、人間関係づくり等将来的な展望に立った教育的ニーズを的確に把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導・支援の充実に努めている。
- ・児童生徒は実際的な生活経験が不足しがちであるため、先進の技術も活用し实际的・具体的な生活に根差した活動の体験を増やし、理解を深めていく必要がある。
- ・卒業後のウェルビーイングの向上を目指し、よりよい生活環境や就労環境を整えるため、進路支援体制をより充実させていく必要がある。
- ・児童生徒が心身共に健康で安全な生活が送れるよう、児童生徒の実態や発達段階に合わせた体力づくりを推進するとともに、感染症の予防に係わる指導や感染防止対策の整備に努める必要がある。
- ・教員一人一人が危機管理に関する意識を高め、児童生徒への安全教育の徹底を図るとともに、不測の事態に対して組織的に対応できる学校づくりに努める必要がある。
- ・小学部から高等部まで連続性のある一貫した取組となるよう教員、保護者、関係機関が綿密な連携を図る必要がある。
- ・児童生徒への適切な支援のための合理的配慮や教育方針等に関して、保護者との合意形成を十分に図るとともに、地域や保健・福祉・医療・労働等の関係機関とネットワークを形成することで、家庭全体を支える体制づくりに努める必要がある。
- ・PTA活動について、更なる活発な活動を推進するため、保護者が参加しやすい環境づくりやスムーズな引継ぎシステムの構築を保護者と連携し一緒に考えていく必要がある。
- ・開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって児童生徒たちを育むことが必要である。

#### 4 学校教育計画

| 項 目  |      |            | 目標・方針及び計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |                                                                                                                                |
|------|------|------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 学習活動 | 教務         | 目標        | ・学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえた指導を行い、学習状況を適切に評価し、指導・支援方法を振り返り改善できるよう、個別の指導計画（学習の記録）を活用して、指導・支援の充実を図る。                                                                                                                                                                                   |    |                                                                                                                                |
|      |      |            | 計画        | ・本校の児童生徒の実態、学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえ年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。<br>・個別の指導計画の意義や機能、本校の学習の記録の活用の仕方について、マニュアルや会議等を通じて、周知する機会を設ける。                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                |
|      |      | 各学部        | 目標        | ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。                                                                                                                                                                                                                                          |    |                                                                                                                                |
|      |      |            | 計画        | ・各教科等の目標と内容や児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。                                                                                                                                                                                                                |    |                                                                                                                                |
|      |      | 研修         | 目標        | ・各教科等において各段階での学習のねらいを明確にし、系統的、発展的な指導の在り方について研修する。                                                                                                                                                                                                                               |    |                                                                                                                                |
|      |      |            | 計画        | ・各段階の児童生徒の目指す姿や学習のねらい、学習内容の系統性を意識した指導の在り方などのテーマについて、学部内での小グループで学習会を行う。                                                                                                                                                                                                          |    |                                                                                                                                |
|      |      | 情報<br>重点 1 | 目標        | ・タブレット端末やプロジェクタ等の I C T 機器利用環境の整備や安全かつ効率的な情報管理運用を図る。<br>・職員の I C T 活用能力・技術の向上を目指し、授業等において積極的な活用を図る。                                                                                                                                                                             |    |                                                                                                                                |
|      |      |            | 計画        | ・執務用 P C やタブレット端末等の I C T 機器を授業や校務で効果的・効率的に活用できるよう、環境を整える。<br>・授業準備や分掌業務等を効率的に進めることができるよう、共有データの整理・精選を行う。<br>・会議や授業等において I C T 機器を積極的に活用できるよう、I C T 機器の活用方法やアプリケーションに関する研修を行ったり、I C T 機器を活用した授業研究を実施したりする。<br>・ <u>VR ゴーグルを授業で積極的に活用できるように、VR 動画コンテンツを作成したり利用しやすいように整えたりする。</u> |    |                                                                                                                                |
|      |      | 2          | 学校生活      | 保健                                                                                                                                                                                                                                                                              | 目標 | ・児童生徒が健康で安全な生活を営むことができるようにする。                                                                                                  |
|      |      |            |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 計画 | ・日常生活における健康な生活習慣について児童生徒の意識を高める。家庭との連携を図り、好ましい習慣形成を図る。<br>・緊急時の対応や感染防止等に関する基礎的な知識の研修や校内環境の整備を行うことにより、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。 |
| 生徒指導 | 目標   |            |           | ・災害時における安全指導の充実を図る。                                                                                                                                                                                                                                                             |    |                                                                                                                                |
|      | 計画   |            |           | ・災害対策訓練を年 3 回以上行う。<br>・教職員の防災に対する意識の向上を図る。<br>・防災に関する危機管理マニュアルの見直しを図る。                                                                                                                                                                                                          |    |                                                                                                                                |

|   |                  |                    |     |                                                                                                                                                                                                                                           |
|---|------------------|--------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | 学<br>校<br>生<br>活 | 寄<br>宿<br>舎        | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。</li> <li>・舎生が寄宿舍で安心安全に過ごすことができるようにする。</li> </ul>                                                                                                                       |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生の実態や行動特性等を「生活チェックリスト表」や「寄宿舍生活の記録」を用いて共通理解を図る。</li> <li>・行事や交流活動、グループ活動などを通して経験を積み、余暇の充実を図る。</li> <li>・様々なケースを想定した避難訓練や感染症対策、投棄管理を実践する。また、ヒヤリハット事例を共有することにより、危機管理に対する職員の意識や対応力を向上させる。</li> </ul> |
| 3 | 進<br>路<br>支<br>援 | 進<br>路<br>指<br>導   | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に進路選択できるよう系統的に支援したり、保護者に適切な情報を提供したりと、進路相談の充実のために教員の資質向上を図る。</li> </ul>                                                                                                                      |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者雇用、障害福祉サービスに関する研修の機会を設ける。</li> <li>・地域の事業所の情報収集に努め、最新の情報を提供する。</li> <li>・生徒の進路面談や進路検討会の前に、進路指導部と担任が生徒の実態や進路希望、家庭の状況について情報共有し、方向性を探る。</li> </ul>                                                |
| 4 | 特<br>別<br>活<br>動 | 特<br>活<br>重<br>点 2 | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたってスポーツ・文化芸術活動等に継続して親しむことができる能力や態度を養うために、地域の事業所や住民等の協力を得て、スポーツ・文化芸術等の生涯学習活動への参加を奨励する。</li> </ul>                                                                                              |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動についての情報を積極的に児童生徒や保護者に案内し、生徒の興味・関心に応じた適切な活動を選ぶことができるようにする。</li> <li>・<u>児童会活動、生徒会活動、部活動等において、地域の事業所や住民等と連携した活動を取り入れるようにする。</u></li> </ul>                                     |
|   |                  | 図<br>書             | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。</li> </ul>                                                                                                                                             |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。</li> <li>・生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。</li> <li>・児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、小学部・中学部への移動図書、読み聞かせの会、校内読書感想画コンクールを実施する。</li> </ul>                             |
| 5 | そ<br>の<br>他      | 教<br>育<br>相<br>談   | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的機能の充実を図り、地域の幼稚園、保育園、認定こども園、小学校及び中学校、義務教育学校、高等学校（以下小・中学校等）に在籍する幼児児童生徒等を支援する。</li> </ul>                                                                                                       |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小・中学校等へよりよい支援の提案や情報提供ができるように、管理している教材や支援方法等の資料の電子データ化を進め、より利便性を高め、地域支援に活用する。</li> </ul>                                                                                                        |
|   |                  | P T A<br>重<br>点 3  | 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・P T A活動の内容の見直しや引継ぎ方法の確立への協力により、持続可能なP T A活動の推進を図る。</li> </ul>                                                                                                                                     |
|   |                  |                    | 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>次年度の委員が見通しをもち、活動を運営できるように引継ぎファイルの内容や活用方法について役員と見直す。</u></li> <li>・<u>ベルマークの仕分け・収集活動へのより積極的な参加を促すため、保護者の要望を取り入れた活動内容の見直しや、実施ができるように委員のサポートを行う。</u></li> </ul>                                   |

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

| 令和7年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 - |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                  |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 重点項目                       | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                  |
| 重点課題                       | VRゴーグル・360度カメラを活用したバーチャル体験学習の促進                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                  |
| 現 状                        | 近年、VR (Virtual Reality) 技術は急速に発展し、私たちの生活場面に様々な形で浸透してきている。そのメリットは多岐に渡るが、とりわけ3Dコンテンツによる直感的・体験的な理解が可能であること、時間的・場所的制約が解消されること、危険であったり複雑であったりして現実では体験することが難しい場面を安全に再現できることなど、学校での学習活動に対しても大きなメリットになり得る可能性をもっている。一方で、本校でもICT機器の整備の過程で、VRゴーグルや360度カメラといった先進的な機器を保有してはいるものの、VR動画コンテンツの作成方法、VRゴーグルの授業での活用のための準備が整っておらず、学習活動での活用方法が確立されていない。 |                  |
| 達成目標                       | ①360度カメラで撮影したVRゴーグルで利用可能な学習教材の作成                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ②VRゴーグルを活用した授業実践 |
|                            | 5つ以上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 年間5件以上           |
| 方 策                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要なソフトウェアや機器を整備し、VR動画コンテンツ作成の環境を整える。</li> <li>教職員に対してVRゴーグルを知ってもらう機会を設ける。</li> <li>VR動画の活用が効果的と思われる教材のアイデアを募集する。</li> <li>活用のイメージをもてるように、実践事例を紹介したり授業準備のアシストを行ったりする。</li> </ul>                                                                                                             |                  |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

| 令和7年度 高岡支援学校アクションプラン - 2 - |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                      |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 重点項目                       | 特別活動                                                                                                                                                                                                                                                           |                                      |
| 重点課題                       | 地域の事業所や住民等との連携を通したスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動への参加の奨励                                                                                                                                                                                                                     |                                      |
| 現 状                        | 本校児童生徒のほとんどが下校後に放課後等デイサービス事業所を利用している。また、休業日や放課後には、一部の児童生徒が地域のスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動に参加している。しかし学校としてその活動内容や参加している児童生徒については把握していない。また、それらの案内についてもほとんど実施していない。                                                                                                         |                                      |
| 達成目標                       | ①地域の事業所や住民等と連携した児童会活動・生徒会活動、部活動等の設定                                                                                                                                                                                                                            | ②児童生徒が利用している地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動の案内 |
|                            | 3回以上                                                                                                                                                                                                                                                           | 3回以上                                 |
| 方 策                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童会活動、生徒会活動、部活動等において、地域の事業所や住民等と連携した活動を取り入れるようにする。（さわやか週間、陸上部：交流マラソン、室内競技部：合同練習会、音楽部：交流コンサートでの演奏、コンピュータ部：ポスター等の作成及び印刷、美術部：公民館での作品展示 等）</li> <li>児童生徒が利用している地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動について調査し、必要に応じて児童生徒、保護者へ案内する。</li> </ul> |                                      |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 高岡支援学校アクションプラン - 3 -

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 重点項目 | その他（P T A）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                      |
| 重点課題 | P T A活動への積極的な参画につながる引継ぎファイルの工夫や活動内容の見直し                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                      |
| 現 状  | <p>令和6年度のP T A活動は、参集型の研修会や親子活動が好評だったが、5年ぶりの実施形態であったことから、手探りで企画・運営する様子が見られた。役員や委員の任期は原則1年としており、企画・運営は前任者や活動経験者に聞いて行うことが多いことから、これまでも引継ぎ方法が課題になっていた。そこで、昨年度に各委員会の引継ぎファイルを整備したが、記載内容が不統一な上、次年度の担当者が見通しをもって運営できるようにする視点でまとめられていないことから、さらに内容等の検討・充実を図る必要がある。</p> <p>担当委員はベルマークの収集を教育環境整備に役立てるため継続して実施したいと考えているが、近年、収集や仕分けの活動は低調である。会員から寄せられた参加可能な方法等に関する意見をもとに、多くの保護者がベルマーク収集への関心や意欲をもち、積極的に活動へ参加できるように改善が必要である。</p> |                      |
| 達成目標 | ①引継ぎファイルの見直し                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ②ベルマークの収集、仕分け等への参加人数 |
|      | 各委員会で2回検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | のべ60名                |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の役員会で引継ぎファイルを見直す。ファイルには、活動の振り返り(チェック)、次年度に向けた検討事項(アクション)及び次年度の企画(プラン)が記載できるようにする。また、作成を通して、活動の目的に応じた企画・運営の在り方や活動内容について委員同士で意見交換できるよう工夫する。</li> <li>・各委員会で活用後、11月の役員会で意見交換し、2月の役員会で見直す。</li> <li>・総務委員と保護者の意見を取り入れた「ベルマークの日」を企画し、実施する。</li> <li>・第1回(6月)の実施状況を踏まえ、委員と活動内容や参加の呼掛け方等について見直し、第2回(夏季休業中)、第3回(9月)に生かす。</li> </ul>                                          |                      |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)